

ひやくまん穀通信 第1号

南加賀支部版

ひやくまん穀支援チーム
2023年4月発行

安定生産に向けて・・・

「土づくり・肥培管理」と「適正な水管理」

を行いましょう！

1 土づくり

重要！

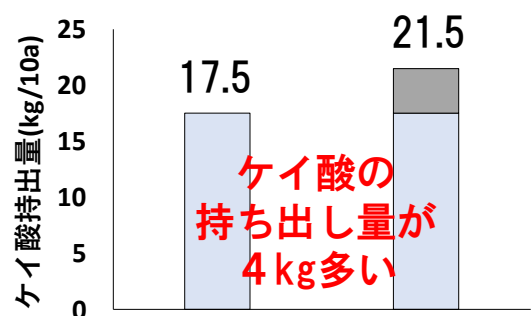
(1) 収穫後～代掻き前までに土づくりを行う。

土づくり資材の施用量

- ・ひやくまん馬力・・・110kg/10a
- ・輸入ようりん・・・110kg/10a

※各JA推奨資材

→ケイ酸分で21.5kg/10a以上投入してください！



コシヒカリ ひやくまん穀

図 収穫によるケイ酸持ち出し量

(2) 作土層15cm以上確保するように耕起を行う。

代掻きまでに散布が間に合わなかった場合は、

「BB PKけいさん」を中間追肥しましょう！！（6月下旬頃）

2 育苗計画：5月10日までに田植えをする！！

項 目	一	般	移	植
田植え時期	5/1	5/5		5/10
播 種	4/6	4/13		4/20
出 芽 2.5 日	4/6～4/9	4/13～4/16		4/20～4/23
ハウス管理	4/9～5/1	4/16～5/5		4/23～5/10
播種～田植	2 5 日間	2 2 日間		2 0 日間



図 適期の苗

老化苗にならないように注意！

重要！

中苗（4葉がみえている）になってしまうと分けつの発生が遅くなり、必要な穂数が確保できません。

育苗期間は1ヶ月以内に収めましょう！！

3 育苗： 育苗期間は1か月以内！

ハウス内の温度管理、水管理はコシヒカリと同様に行う。

4 田植え： 5月10日までに田植えをする

(1) 耕起、代掻き、雑草防除

作土層15cm以上確保するようにゆっくりと耕起し、コシヒカリと同様に行う。

(2) 病虫害防除

苗箱施箱は、いもち病、紋枯病に効果のある薬剤を施用する。

(3) 適期での田植えの励行

①穂数確保、②登熟期間の日射量確保のため、5月10日までに田植えをする。
田植えが遅くなると出穂期が遅くなり、収量、品質の低下を招きます。

田植え	出穂期	刈取適期
5 / 5	8 / 4	9 / 15 ~ 9 / 19
5 / 10	8 / 8	9 / 20 ~ 9 / 24

※出穂期、刈取適期は、田植え後や登熟期間の気温の推移によって前後する。

(4) 栽植密度

収量・品質の安定に向けて、穂数をしっかりと確保するため、60株/坪以上にする。

(5) 施肥 適正な施肥量を守る

施肥量は、窒素量で コシヒカリ + 3 kg/10a以内 とする。

肥料名	施肥量 (kg/10a)		
	平坦地	低地力田	高地力田
ひやくまん穀 一発くんNEO T※	35	40	30

※保証成分(%) N-P-K = 28(基肥:11.5、穂肥16.5) - 8 - 8

5 田植え後の水管理

(1) 浅水管理で初期分けつを促進

活着(新根が発生する田植え2～3日後)までは深水管理で植え傷みを防ぎ、その後は浅水(水深3cm程度)にする。

※除草剤の田植え同時処理使用の場合は、処理7日後まで深水とする

初期分けつをしっかりと確保することで収量向上につながります！！

(2) 低温・強風時は苗が水没しない程度に深水とし、苗を保護する。

問い合わせ先 J A 能美 (電話：0761-57-2655)

南加賀農林総合事務所農業振興部 (電話：0761-23-1703)

加賀農林事務所 (電話：0761-72-8511)